

## 2019年8月3日「高鍋めいりん未来創造塾」



高鍋町内の中学生、高校生が、地元で働く喜びなどについて、町内の社会人とグループディスカッションする「高鍋めいりん未来創造塾」が、8月3日、高鍋町役場で開かれました。塾の開催は、去年10月にセンターが開設されて以来、初めてです。

高鍋東中学校、西中学校、高鍋高校、高鍋農業高校、宮崎産業経営大学、それに地元で働く社会人などおよそ50人が、グループディスカッションを通じて、地元の魅力や地元で働く意義を見つめなおしました。

塾では、まず、福岡市から高鍋町に移住してゼリーを製造・販売する会社を創業した田中陽一さんが講話しました。

田中さんは、宮崎県産のマンゴーやトマトなどを使ったゼリーで、人に幸せを届けられるような仕事がしたいと夢を語ったうえで、「仕事を通じて、自分がどう生きるのかを考えてほしい」と、アドバイスしました。

このあと、町内の社会人たちも加わって、8グループに分かれて町の課題や活性化策について意見交換しました。

社会人たちは、地元で働く魅力や働き甲斐について話し、もっともっと自分の故郷のことを知って好きになって欲しいと高鍋町のよさをアピールしていました。

参加した中・高校生からは次のような感想が寄せられました。

### ▽中学生

自分の知らなかった高鍋町の課題や良いところを、たくさん知ることができました。

大人の話も聞けて、前よりも高鍋のことが好きになれたし、自分の将来を考えることができました。

### ▽高校生

大人も交えてワークショップするのは新鮮でした。働くことや将来のことについて考えさせられる良い機会になりました。

高鍋キャリア教育支援センターでは、今後も内容を充実させ、将来を担う子どもたちがふるさと高鍋を見つめる機会を増やしていきたいと考えています。



# 移住体験 進路の参考に

## 高鍋でめいりん未来塾

体験談ではマンガやト  
ン(35)「福岡市出身」が登  
壇。結婚を機に妻奈緒美さ  
まを製造・販売する会社を  
ん(32)の実家がある同町に  
町内に創業した田中陽一さ  
ま移住した経緯を説明した。

高鍋町内の中高生が移住者らの体験談を聞き、進路選択の参考にしよう「高鍋めいりん未来創造塾」(高鍋町キャリア教育支援センター主催)は3日、町役場であった。社会人も交えた約50人がグループディスカッションなどを通し、地元高鍋の魅力や地元で働く意義を見つめ直した。



町内の社会人を交え、地元の魅力などを意見交換した「高鍋めいりん未来創造塾」参加者ら

## 中高生 地元で働く意義考える

本県は1次産業が多いこ  
とに着目し「ゼリーで人を  
笑顔にしたい」と考えた」  
と、創業のきっかけを紹  
介。「仕事を通して自分が  
どう生きるのか考えて」と  
助言した。

続いて町内の社会人らも  
加わり、8班に分かれ町の  
課題や活性化で意見交換。  
社会人が地元で働く魅力な  
どについて意見を述べた。

高鍋高2年の岩木玲奈さ  
ま(17)は「町内にどんな仕  
事があるのか興味を持っ  
た。進路を決める参考にし  
たい」と話していた。

【コーディネーターの森  
淳一さん(67)】昨年10月に  
センターがオ



ープンして以  
来、塾の開催  
は初めて。今

後は内容を充実させ、地元  
就職を望む若者を増やす一  
助になるといいですね。

(南村知宏)